

新パンフレット 「大学生のための 人生とお金の知恵」のご紹介〈後編〉

前号では、新パンフレット『大学生のための 人生とお金の知恵』の内容を紹介しました。今号では、このパンフレットを使って大学で講義を行ったときの学生の反応を紹介します。



大学における講義

金融広報中央委員会では、新パンフレット『大学生のための 人生とお金の知恵』を、大学における先生方の講義の副教材などとして無償で提供しているほか、大学に向けて講義も行っています。

今回は、このパンフレットを使って1コマの講義を行ったときの、大学生の反応をご紹介します（以下は、アンケートによく記されている感想などです。受講者は1年生が中心です）。

① こんなにお金か？

学生には、まず、高校卒業まで

にどれくらいのお金がかかったか、大学ではどのくらいのお金がかかるか、簡単に試算してもらいます。

すると、たいてい、「こんなにお金がかかっているとは！」と驚きました。そして「親に感謝したくなった」との感想が付け加えられます。

一生にかかる費用（教育、住宅、老後ほか）についても学ぶと、金額の大きさに驚きの声が上がります。

② 能力を高めたい

「働くこと」が、自分の人生にとって、また社会にとって、どのような意味を持つのかを考えます。そして、「働くこと」の報酬（収入）は、他者

に提供できる価値の大きさによって決まることを理解すると、「大学に入って、気が緩んでいた（勉強していなかった）」との反省と、「価値を提供できるよう、これから能力を高めていきたい」との決意が記されます。

③ 時間の使い方を直したい

学生にとって、「いま」が一番能力が伸びる時期であり、「時間」が貴重な「資源」であることが理解されると、時間の使い方への関心が高まります。

「1日の限られた時間をバイトや勉強にどう配分するか、見直してみたい」、「勉強するときには、『集中』したい」などです。

④ 夢を描きたい

人生において実現したい「夢」を書き出してみます。また、「30歳のときにどんな自分になっていたか」も考えてみます。

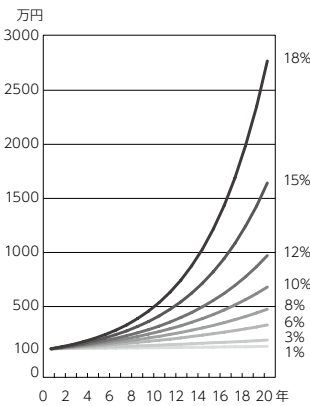
「中学までは夢を描いていたが、いまは忘れてしまっていた」とか、「自分はこう生きたいのか（何をしたいのか）、よく考えたことがなかった」といった感想が大半です。

何が幸せか、どんな仕事が好き

■新パンフレット目次

はじめに	
● 本書は、「人生とお金」に関して身につけていただきたい知恵を、大学生の皆さんに普及して紹介するものです。習熟社会人の方にも役立ちます。	
● 人生のデザインを学ばせよう。また、社会人として自立できる力、夢を実現できる力を身につけましょう。本書がその一助と祈ります。	
本書の内容	
I 人生のデザインとお金	1
1. これまでに学んだお金	1
2. 人生のデザインを描く	3
3. ライフプラン	4
4. 人生とお金	5
5. 働くこととお金	7
6. 人生の不確実性と意思決定	11
II お金の知恵	12
1. お金の機能や特徴を理解する	12
2. 収入を把握する	15
3. 支出を把握する	16
4. お金の使い方を考える	17
5. お金を貯める	20
6. お金を運用する	22
7. お金を借りる	34
8. 損失に備える	41
III 不確実な人生に臨む	47
1. 人生の不確実性に向き合う	47
2. 不確実性の中で意思決定する	49
3. セーフティネットを理解する	55
4. お金に関するトラブルを避ける	59

■複利の力



この法則は、「72を金利で割ると、お金が2倍になる年数が概算でわかる」というものです。たとえば消費者金融でお金を年18%で借りると、約4年で借りたお金は2倍になることが、この法則を使うと簡単にわかります。

ここでの金利は複利です。複利

いかは自分次第であること、夢を描いて行動することで実現の可能性が高まることが理解されると、「ライフデザインを考えてみたい」、「自分はどんな仕事を楽しいと思うか、就活までに見つけない」といった感想につながります。「幸せになりたい」との感想も目を引きま

⑤ 複利の力がわかった

講義のうち「お金の知恵」に関する部分については、「72の法則を初めて知った。これは使えると思った」との感想が最多です。

とは、「利子にもまた利子がつく」ということです。

複利のグラフ(左上図)を学生に示して説明すると、「複利の力がよくわかった」との感想が聞かれます。

⑥ 「天引き貯蓄」をしたい

ライフプランと関連付けて、貯蓄とお金の運用についても勉強します。生きていくため、夢を実現するために貯蓄が必要であることは学生はすぐに理解します。そして、「社会人になったら、「天引き貯蓄」をしたい」との決意を記してくれます。

「天引き貯蓄」とは、手取り収入のうち、貯めようと決めた一定額を最初に差し引いて貯蓄することです。「毎月●万円」を自動的に差し引いて別の口座(積立口座等)に入れてもらう方法をとりま

これが貯まりやすい方法であることが理解されると、素直に実行しようとしてくれます。

⑦ インフレ?

物価が上がっていること(インフレ)は、お金の価値が下がっていることです。インフレが進む中で現金や普通預金だけのお金をもっていると、モノ

やサービスを買う力が低下します。デフレ下で育った大学生は、実感を持って受け止めているようには見えませんが、「インフレにはどう対応すれば良いのか」との関心は持っています。

⑧ お金の運用に関心を持った

お金の運用には、お金の価値を「守る」目的と、お金を「ふやす」目的があることを理解したうえで、金融商品の「安全性」と「収益性」、リスクとリターンとの関係、リスク許容度、分散運用、長期運用、コストの重要性などを学びます。

「お金の運用は自分には関係ないと思っていたが、講義を聞いて運用も大事だと思った」、「天引き貯蓄でお金が貯まったなら、リスクをとれる範囲で運用も考えてみたい」と記す学生もかなりいます。その理由としては、「働いて貯めたお金の価値を守りたい」、「年金が不安。老後資金が不足しないようにしたい」などと記されています。

本パンフレットの利用、大学での講義について

本パンフレットは、当委員会の

ホームページ(「知るばると」<http://www.shinuporto.jp/>)でご覧いただけます。大学などで教材として利用いただける場合、希望部数を送付します(無償)。左記にてご請求ください。

また、当委員会では、本パンフレットを使って大学への出前講義を実施しています。ご希望の方は、メールアドレス: info@saveinfo.or.jp あてにご連絡ください(可能な範囲でのみ実施しており、ご希望に届かない場合があります。あらかじめご了承ください)。



こちらからPDFファイルをダウンロードすることもできます。

宛先: 金融広報中央委員会 刊行物担当

●メールアドレス
books@saveinfo.or.jp

●FAX番号
03-3510-1373

件名: 刊行物請求

記載事項: ①申込者氏名、②郵便番号、③送付先住所、④電話番号、⑤本パンフレットの名称(「大学生のための 人生とお金の知恵」)、希望部数、⑥利用目的、利用日、⑦その他連絡事項